

元気モリモリ！うちのご飯

八本松中学校 一年 瀬尾水樹

私は家でのご飯、食べることに大好きだ。

私の家では、お米をスーパーなどで買った

ことは一度もない。それは少し離れた所に住

んでいる私の祖父母が毎年休むことなくお米

を作ってくれているからだ。

私は小学生の時から陸上競技をしているが

大会の日のお弁当や朝ごはんには必ず祖父母

のお米で作ったおにぎりを食べている。母が

その日のために、早起きをして炊き立てを用

意してくれているのだ。釜を開けたときの香

りをかぐと、幸せな気持ちになると同時に私

のやる気と元気のスイッチがひるみる上がっ

ていく。その香りで朝、目が覚めるくらい私

の楽しみの一つだ。

祖父母が作るお米はフワフワもちもちで、

お店では食べられなくなるくらいのおいしさ

だ。夏休みに家族で祖父母の家に行くとき、毎

回おいしいご飯で出迎えてくれる。その度に

や、ぱり祖父母のお米は一番だと実感する
でもそのおいしさは当たり前ではない。食
というのには、誰かが丁寧に作っているからこ
そよりおいしく、うれしく感じるものだ。祖
父母は私が物心つくより前からお米作
りをしてきていると母が言っていた。それだ
け続けるには相当な努力が必要だと思う。前
に祖父が、
「暑くても寒くても、食べて喜んでいる孫の
姿を思うと自然と頑張れるんだよ。」

この言葉聞いたとき、当時はうれしい気持
ちだけでしたが今思うと、どんなに大変でも
人のために頑張りが続けられるというのは本当
にすごい。それから私は、祖父母の様に人の
ために何かできる人になりたいと思うように
なった。

小さいころに通っていたお料理教室での体
験を生かして、まずは母の誕生日に料理を作
ってみることにした。家族が食べるようになる
皆が好きなメニューを考えた。誕生日だか

ら盛り付けも豪華にしようなどとアイデアを
絞って考えた。その日のために良さをうなレ
シピを調べ、材料も自分で考えて買った。難
しいと感じることもあったが、祖父母の様に
母や皆が喜んでくれる顔を想像して、頑張っ
た。そして迎えた母の誕生日。ドキドキしな
がら食卓に料理を並べた。母が一口目を食べ
ると、
「すっごくおいしい。今日のためにたくさん
用意してくれてありがとう。」

今まで料理はしたことがあったが、人のため
に作ったのは初めてで私の心に響いた。
作るたびに感じたこと、考えたことは全て
祖父の言う「人のために頑張る」ということ
だとやってみて初めて実感した。祖父母が毎
年作ってくれる理由も分かる。
私は食を通して、人のために頑張ることは
素晴らしいと身をもつて感じることもできた
そしてそれを続けていく祖父母のことは本当
に尊敬している。私はますます、祖父母の作

るお米が大好きになつた。祖父母のお米だけではない。普段私が食べているご飯は母が作ってくれている。私は愛情の詰まつた食事で日々、支えられて生きていく。いつか恩返しを必ずしたい。今日も朝から幸せな香りがただよっている。祖父母のお米を食べれば私は、元気もりもりだ。祖父母に届くように、
っ
いた
だ
き
ま
す
。。